

平成 29 年度 第 4 回 上越市歯科保健計画策定委員会 次第

と き 平成 29 年 11 月 9 日 (木)
午後 3 時 30 分～午後 5 時
ところ 上越市教育プラザ研修棟 3 階大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 上越市歯科保健計画改定 (案) について

(2) その他

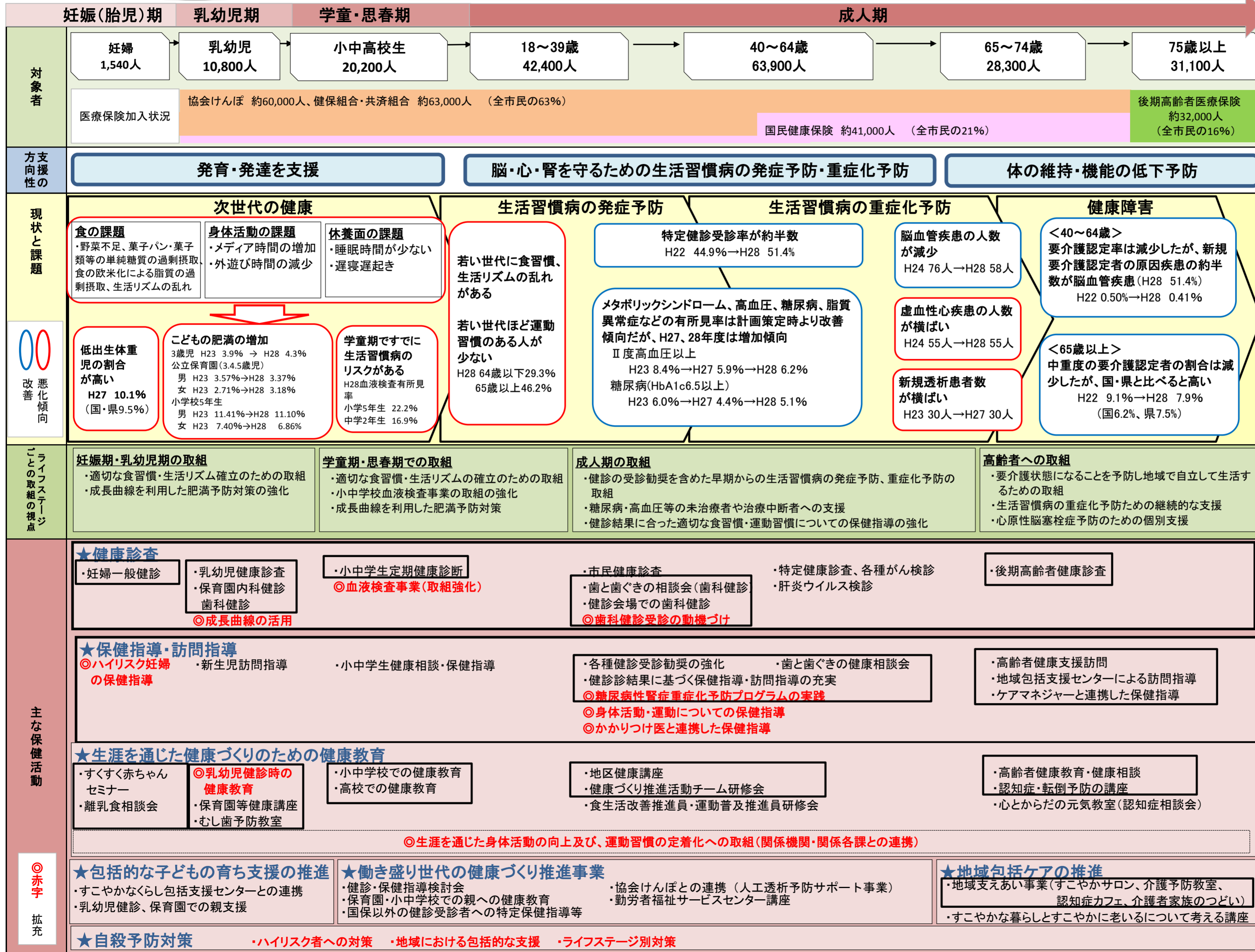
4 閉 会

改定後の上越市健康増進計画に基づく保健活動

『すこやかなまち』への取組
～人と地域が輝く上越～

◆重点施策◆
上越市健康増進計画に基づき、市民のこころと体の健康の維持・増進を図る

◆上越市健康増進計画の基本方針◆
『健康寿命の延伸』と『健康格差の縮小』



市民
自分のことが自分でできる自立した生活を目指して

当市の保健活動
生活習慣の改善や受診勧奨等に向けた保健指導により予防可能な疾患(脳血管疾患、虚血性心疾患、慢性腎臓病)への対策を実施し、早世・障害を予防する

*H29.3.31現在
住基人口

	現計画の評価等				見直し後の計画の指標等		
	現計画の目標	主な取組	中間評価 ●達成 ●未達成	課題	改定後の目標	主な取組	評価指標
乳幼児期	家族で子どもの歯の健康を守る意識の向上と口腔ケアの習慣化	1 幼児歯科健診の実施 2 幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の実施 3 幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の実施・拡充 4 健康教育・健康相談の実施	●3歳児のむし歯有病率の減少	○適切な生活リズムと食習慣の形成が咀嚼等の口腔機能の獲得につながることを理解できていない。 ○1歳から生涯を通じてかかりつけ歯科医をもつことが定着していない。 ○3歳児以降の園児(4.5.6歳児)のむし歯有病率が年齢とともに上昇している。	・生活リズムを基盤とした体づくりと、咀嚼や嚥下等の口腔機能を獲得するための食生活の実践 ・保護者による適切なブラッシングの実践	1 健康教育・健康相談の実施 2 幼児歯科健診の実施 3 幼児歯科健診におけるフッ化物歯面塗布の実施 4 幼稚園・保育園でのフッ化物洗口の実施・拡充 【新規】 幼児歯科健診時、フッ化物歯面塗布未実施者の理由の把握	・3歳児のむし歯有病率の減少(H28) 10.2%→(H34) 10%
			●達成 ●未達成	○適切な生活リズムと食習慣の形成が咀嚼等の口腔機能の獲得につながることを理解できていない。 ○1歳から生涯を通じてかかりつけ歯科医をもつことが定着していない。 ○3歳児以降の園児(4.5.6歳児)のむし歯有病率が年齢とともに上昇している。			【新】 5歳児(園児)のむし歯有病率の減少(H28) 33.4%→(H34) 30%
学童・思春期	子ども自身の歯や口の健康を守る意識の向上と身体をつくる生活習慣の確立	1 歯科検診の実施 2 フッ化物洗口の実施・拡充 3 健康教育・健康相談の実施	●12歳児のむし歯有病率の減少 ●中学生の歯周病判定率の減少	○歯周病判定率の増加と、歯周病と判定される児童・生徒の低学年化。 ○児童・生徒の食習慣や生活リズムの乱れがある。	・体をつくる生活習慣の確立と、食習慣の選択や咀嚼からの口腔機能の獲得 ・小学校5年生までの保護者による仕上げ磨きと、子ども自身による適切なブラッシングの実践	1 健康教育・健康相談の実施 2 歯科検診の実施 3 フッ化物洗口の実施・拡充 【新規】 高校生の口腔状態や口腔ケアの実態の把握	・12歳児のむし歯有病率の減少(H28) 14.5%→(H34) 14%
			●12歳児のむし歯有病率の減少 ●中学生の歯周病判定率の減少	○歯周病判定率の増加と、歯周病と判定される児童・生徒の低学年化。 ○児童・生徒の食習慣や生活リズムの乱れがある。			【新】 小学生の歯周病判定率の減少(H28) 12.5%→(H34) 10% ・中学生の歯周病判定率の減少(H28) 19.8%→(H34) 12%
成人期	全身の健康とつながる歯や口腔の健康管理の実践	1 成人歯科健診の実施 2 健康教育・健康相談の実施	●25～29歳、45～49歳、60～64歳における進行した歯周病を有する人の減少 ●45～49歳で未処置歯のある人の減少 ●60～64歳で未処置歯のある人の減少 ●45～49歳で喪失歯がある人の減少 ●60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加 ●過去1年間に歯科健診を受診した人の増加	○成人歯科健診受診率の低迷 ○歯科健診受診者におけるむし歯・歯周病有病率の増加 ○かかりつけ歯科医で定期的に健診やメンテナンスを受ける意識が定着していない。	・疾病予防や生活習慣の改善につながる歯や口腔の健康管理の実践	1 健康教育・健康相談の実施 2 成人歯科健診の実施 【新規】 「生活歯援プログラム」を活用したセルフチェックと、受診の動機づけ	【改】 進行した歯周病(歯周ポケット4mm以上)を有する人の減少(H28)→(H34) 20代: 20.9→18%. 30代: 20.0→18% 40代: 39.7→36%. 50代: 57.7→45% 60代: 60.5→50%
			●25～29歳、45～49歳、60～64歳における進行した歯周病を有する人の減少 ●45～49歳で未処置歯のある人の減少 ●60～64歳で未処置歯のある人の減少 ●45～49歳で喪失歯がある人の減少 ●60～64歳で自分の歯が24本以上ある人の増加 ●過去1年間に歯科健診を受診した人の増加	○成人歯科健診受診率の低迷 ○歯科健診受診者におけるむし歯・歯周病有病率の増加 ○かかりつけ歯科医で定期的に健診やメンテナンスを受ける意識が定着していない。			【改】 未処置歯のある人の減少(H28) %→(H34) 20代: 33.4→15%. 30代: 24.7→15% 40代: 36.0→18%. 50代: 46.3→23% 60代: 37.4→25%
高齢期	生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続	1 成人・後期高齢者歯科健診の実施 2 健康教育・健康相談訪問事業の実施	●70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加	○成人・後期高齢者歯科健診の受診率の低迷 ○かかりつけ歯科医で定期的に健診やメンテナンスを受ける意識が定着していない。 ○口腔機能の維持及び低下予防のための取組の継続	・生活の質を守るための歯や口腔機能の維持と口腔ケアの継続	1 健康教育・健康相談、訪問事業の実施 2 成人・後期高齢者歯科健診の実施 【新規】 口腔機能の一つの指標となる「咀嚼」の実態把握	・70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加(H28) 50.5%→(H34) 70%
			●70～74歳で自分の歯が24本以上ある人の増加	○成人・後期高齢者歯科健診の受診率の低迷 ○かかりつけ歯科医で定期的に健診やメンテナンスを受ける意識が定着していない。 ○口腔機能の維持及び低下予防のための取組の継続			【新】 過去1年間に歯科健診を受診した人の増加(H28) 40.7%→(H34) 60%
障害児・者	個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化	1 歯科健診の実施 2 健康教育の実施	●歯科健診を受診した人の増加	○障害児(者)施設における歯科健診の実施が十分でない。 ○要介護者の口腔機能維持及び低下予防に向けた在宅歯科医療連携室の周知が不十分。	・個々の状態に適した歯の健康を守るための意識の向上と口腔ケアの習慣化	1 歯科健診の実施 2 健康教育の実施 【継続】 障害児(者)歯科保健推進事業未利用施設に対する働きかけ	・障害児(者)歯科保健推進事業実施施設の増加(H28) 50%→(H34) 100%